

山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



▲「組合員の結束」を呼びかける栗山理事長

「更なる結束」を呼びかける

栗山理事長 新年互礼会のあいさつで

平成31年1月8日（火）、流通会館第2展示場で新年互礼会が開かれ、今年も例年と同様に組合員・来賓合わせて70人を超える参加となった。

会の冒頭、栗山理事長は昨年の取り組みについて触れ、「当組合は組合員企業が安心して事業活動ができる安全・安心な街、企業活動に最適なまちづくりを目標に掲げ運営を行い、①昨年7月に新しい防犯監視カメラ・ライブカメラが完成・引渡しとなり、窃盗事件・不法投棄・車上荒らしについて、警察に録画映像を提供した結果、検挙されている。②BCP計画に基づいた緊急防災用品は、非常食を毎年600食・5年間で3,000食を備蓄予定し、今後あらゆる防災用品も備えていく。③BCP対策のハード面だけでなく、昨年は総合防災訓練を開催し、約90名の方に参加していただいた。④未来検討委員会では自然災害への対応を検討し、いずれ来るとされる災害に耐えられる防災拠点となる建物が必要と考え、街づくりのコンサルタントと共に建設の方向で検討を始めたい」と述べ、今後更に発展するために財政の健全な運営を心がける中、すべての組合員の理解と協力を求め、更なる結束を呼びかけた。

また、山梨県産業労働部佐野部長、中央市田中市長、山梨県中小企業団体中央会細田会長の3氏にお祝いの言葉をいただき、続いて御来賓の方々に栗山理事長が加わり10人で鏡割りを行い新たな年のスタートを祝った。



▲ 来賓を合わせて10人が行う鏡割り

初訓練に備え見学

熊谷流通センター テキパキした進行参考となる

11月13日（火）、理事、総務委員会、BCP対策チームのメンバー12人で、協同組合熊谷流通センター（理事長 大久保和政氏）の総合防災訓練を見学した。

見学の目的は、熊谷の卸団地が、以前からBCP対策に積極的に取り組み、総合防災訓練も今年で第8回を迎えており、当組合が11月22日（木）に初めて実施する総合防災訓練のお手本とさせていただくことにあった。

組合役員、事務局職員の皆さんは、緊急地震速報音が鳴り始めても、8回目ということもあり、慌てることなく、テキパキと予定行動に移っていた。

大久保理事長からの、団地全体への災害発生に伴う災害対策本部の設置と、避難行動を促すアナウンスにより、組合会館隣りにある避難場所の公園には、続々と団地内従業員がブロック別に集合（参加者予定者は組合員数約50社、従業員数約150人）してきた。中には、地震で負傷したことから、車いすに乗せられてこられる参加者もあり、臨場感に満ちた避難訓練に見受けられた。

開会式のあと、訓練は地元の消防隊員の指導のもと、水消火器による消火訓練を行う班と、テントの中でAEDを使い応

急手当てを行う班に分かれ、交互に入れ替えて訓練が行われた。ベンチをかまどとして火を起し、味噌汁を作る訓練も行われ、温かい味噌汁もいただいた。熊谷の卸団地の皆様のお心遣いには、感謝申し上げるとともに、見学メンバーの防災意識も高まった見学会は、無事目的を達成し終了した。



初の総合防災訓練に91人参加

栗山理事長が陣頭指揮

平成30年11月22日（木）、午前9時20分から当組合初の総合防災訓練が流通会館前駐車場と流通会館第2展示場を使って行われ、組合役職員、組合員従業員、甲府南消防署員合わせて91人が参加した。訓練は、8月に結成したBCP対策チームが中心となって展開された。

組合は、これまでに単発の防災訓練は実施してきたが、連続して行ったことはなく、参加者も多くて20人程度であった。

今回の総合防災訓練は、当組合が平成28年度に作成した組合BCPマニュアルをもとに実施した。また、協同組合熊谷流通センターの総合防災訓練を見学し、取り組みをお手本として、総合防災訓練に臨んだ。

組合は、訓練に緊張感を持たせるために、参加者が着用する災害用ベスト、防災用ヘルメットを準備し、一体感を醸成することに努めた。

参加者は、緊急地震速報、栗山本部長による災害対策本部の設置宣言、安否確認メール発信と返信、流通会館前の東西南北ブロック毎の人員確認の一連の流れのもとに集合したあと、開会式を行い、訓練開始となった。

訓練は、流通会館前駐車場で、全員による水消火器を使った初期消火訓練、消防用ホースの着脱訓練、小型ポンプ車か

らの放水訓練を行ったあと、会場を第2展示場に移動し、全員による三角巾を使った応急手当訓練を行ったあと、消防署員から講評を受け、炊き出し訓練を実施した。炊き出しは、大型のかまに入れた水をガスで温め、保存用ライスを湯せんしたものを参加者全員で食して、その後解散となった。

初めての総合防災訓練であり、改善する点や課題も見受けられたが、来年度以降も続けて実施できるよう、BCP対策チームなどでよく話し合い、進めていくこととした。



定例懇談会 6秒待つ余裕持とう

アンガーマネジメント 樋口講師の講演傾聴

定例懇談会が2月20日（水）に開かれ、組合員30人が出席した。講師は、HRDサポート代表の樋口しのぶ氏。大学卒業後、大手食品メーカーに18年間勤務し、人事部で人材育成に取り組んできた経験を生かし、独立。現在は、保有資格を生かして、人材育成に関する相談への対応やヒューマンスキルに関する各種研修・セミナーを民間企業や行政機関で幅広く行っている。

今回のテーマは、アンガーマネジメントファシリテーター資格者である樋口氏の得意分野である「ハラスメント対策に効くアンガーマネジメント」。怒りのマネージメントが必要になってきた背景には何があるのか。

最近の「いじめ・嫌がらせ・パワハラ」に関する個別労働相談が増加傾向にある中で、厚生労働省も、防止策を企業に求め、行政指導に力を入れ始めた。

ハラスメント対策の一つとして、アンガーマネジメント研修が管理監督者や従業員の教育として取り入れられ、怒りのパターンや発生メカニズムを知り、怒りの感情のコントロール法を身につけることへの必要性がでてきたと樋口氏は強調した。

怒りは、人間にとって自然の感情の1つで、怒りのない人はいないし、なくすことも不可能で、身を守るための感情である。アンガーマネジメントとは、怒りで後悔しないことであり、怒る必要のある場合、上手に怒り、怒る必要のないこ

とは怒らないようにすることと定義した。

講師から「この1週間に怒ったことがありますか」と出席者へ問い掛けがあり、怒りの強度、持続性、頻度、攻撃性をグラフ化し、自己診断するとともに、他者診断することにより、そのズレを知ることがハラスメント防止に繋がることを互いに実感した。

講師は、怒りをコントロールするためには、3つのコントロール法があるとし、①衝動のコントロール（6秒待つ）、②思考のコントロール（許せるゾーン、まあ許せるゾーン、許せないゾーンへの三重丸があり、境界を広げる）、③行動のコントロール（変えられるか、変えられないかの分かれ道の中で重要である、重要ではないを自覚する）の説明があり、怒りの連鎖を断ち切ることににより、「ハラスメント」という生産性を減退させる行動も断ち切りましようとして締めくくられた。



「働き方改革」進めよう

山下アドバイザーを招きセミナー

平成31年1月28日（月）、中央市商工会・当組合共催の「働き方改革セミナー」が流通会館で開かれた。

講師は三井住友海上経営サポートセンター経営リスクアドバイザー山下賢二氏。去年7月6日に交付された「働き方改革関連法案」の施行に備え、中でも重要度の高い「同一労働同一賃金」や「長時間労働の是正」等の実務において企業が対応すべき点を分かりやすく解説した。

近年、人手不足が続く状況の中、人材の確保や定着のためにも「働き方改革」への取り組みを重要課題ととらえる経営者は多いという。

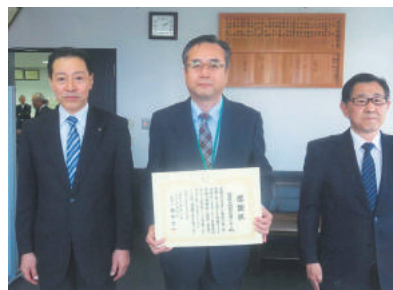
およそ60分の講義の中で山下氏は、当関連法案のポイントを解説したほか、施行されることで起こりうるリスクへの対処法や回避するための取り組み例などを紹介し、参加者にとって有意義なセミナーとなった。



安全対策で県警表彰を受ける

防犯カメラ設置など評価される

当組合は防犯カメラを団地内に設置し、安全・安心な地域社会に向けた取り組みを行い、犯罪の起きにくい社会実現に大きく貢献したとして2月21日、山梨県警安全生活部長鶴田孝一氏から、山梨県警本部で表彰された。この日はほかに12事業所が表彰された。当組合からは、理事長代理として、深沢専務理事が出席した。



▲ 表彰状を手にする深沢専務理事



設置した防犯カメラ ▶

社員交流会大にぎわい

ゲーム楽しみ、歓声挙がる

第8回社員交流会が昨年12月5日（水）に開かれ、27社から107人が参加した。

今回はこれまで以上に参加者同士の交流を目的とし、よりパーティー感を楽しんでいただこうとの試みで、場所を山梨グランドホテルに移しての交流会となった。

小林愛直運営委員長の乾杯のあいさつの後、立食形式で参加者たちは懇親し合い、企業の垣根を越えてにぎやかに歓談した。

チーム戦として行ったイベントは、チロルチョコをリレー形式で積み上げていく『チロルチョコタワー』や、ビンに入ったコーラをストローで飲み干す『コーラ一気飲みリレー』などで、自社の同僚を応援する声や勝利に喜ぶ声で会場は大いに盛り上がった。

特に、メインイベントとなる『名前でビンゴゲーム』では、参加者の名前が呼ばれるたびに、「ビンゴ」という歓声が沸き起こり、企業から協賛いただいた景品を獲得しようと和気あいあいの中にも、熱が入る参加者も多く見られた。

最後に全員笑顔で記念撮影をして、交流会を終了した。



海外進出に向け中国市場を学ぶ

LoMAの会 パワーディナー 国際創建中込氏講師に

青年部『LoMAの会』は、2月15日（金）にパワーディナーを開いた。今回は、香港の国際創建有限公司（Wing Fat International Creative Ltd）代表取締役 中込直樹氏を講師としてお招きし、海外での事業展開をテーマにご講演いただいた。

中込氏は山梨県出身で、中国遼寧省の東北大学に進学後、キャラクターライセンスを扱う香港日系商社に勤務。2007年に同社を創業し、中国広東省を中心にベビー玩具の企画・制作・製造や、飲食事業等を幅広く展開している。現在は世界8カ国に拠点を持ち、約1200人の社員を抱えるまでに事業拡大した。

講演を通して、中国市場の特徴や展望を、中込氏の経験も踏まえながら詳しくご説明いただいた。事業の海外進出を考える上で重要なヒントを得ることができ、有意義な機会となった。



肺がんなどの早期発見へ

2月の9日間山梨病院で13社39人が受診

平成31年2月6日（水）～26日（火）までの9日間で、脳ドッグ・肺CT検査が甲府山梨病院で実施され、13社から39人が受診した。

無症候性の脳血管疾患、その危険因子、肺がんなどの早期発見に努めた。

乳がん検診の関心高まる

乳がん検診34社から170人が参加

乳がん集団検診が平成31年2月20日（水）、21日（木）の2日間、流通会館第2展示場で開かれ、34社から170人が受診した。

女性の14人に1人が罹るといわれている乳がんは早期発見が非常に重要とされているため、当組合では20代・30代の方には乳腺エコー検査、40代以上の方にはマンモグラフィと年齢にあった検査の受診を推奨している。



北ブロック 団体は山崎製パンDチーム

個人は河野洋揮さんが優勝

11月16日（金）、北ブロック懇談会ボウリング大会が甲斐市の大統スターレーンにて行われた。北ブロック懇談会に所属する9社24チームより95名が参加し、大いに盛り上がりを見せた。今年、山崎製パンDが優勝、日新厨房企画が準優勝、甲信食糧Cが3位という結果だった。個人では、河野洋揮さん（日新厨房企画）が平均スコア185（2ゲームトータル）で優勝した。上位（3位まで）の結果は以下の通り。



▲ 団体優勝の山崎製パンDチーム

団体の部（2ゲームトータル）

※敬称略

順位	会社名	メンバー	スコア
優勝	山崎製パンD	市川、佐藤、井上、岩井	1,142
準優勝	日新厨房企画	杉本、河野、田川、海野	1,137
3位	甲信食糧C	諏訪田、笹原、野田、上田	1,094

個人の部（2ゲームトータル）

順位	氏名	会社名	スコア
優勝	河野洋揮	日新厨房企画	371
準優勝	井上華奈子	山崎製パンD	336
3位	逸見公一	甲信食糧A	334



◀ 個人優勝の河野洋揮さん

フォークリフト運転技能向上

3社の5人が講習受ける

後期フォークリフト運転技能講習会が平成30年11月17（土）・18（日）・24（土）・25（日）の4日間、湯村自動車学校で開かれ、3社から5人が参加した。

当講習会は認定職業訓練コースとして需要が高く、毎年2回、前期と後期に分けて参加者を募り開催している。

来年度も6月と11月に講習会を予定しているので、必要な方は後日事務局から案内文を発信いたしますので、お申込みください。



台湾2泊3日の旅、行ってきました～！

センターでバザールのビンゴ大会当選者から感想文届く

以前から、台湾に一度行ってみたいね！と子どもと話していたところ、参加したセンターでバザールのビンゴ大会で1等景品として当たり、ビックリしました！

私たち2人は、平成30年12月20日～22日、「見る！食べる！おもいきり台北・九ふんツアー（2泊3日）」に参加しました。＜1日目＞20日早朝、羽田空港を出発、午前中のうちに台北の松山空港に到着しました。ホテルにチェックイン後、近くの“西門”まで歩いていきました。

“西門”は原宿のように賑やかな場所で、おいしそうなものに溢れ、タピオカミルクティー、からあげ、麺を食べ歩き、どれも美味でした。夕食は小籠包などの上海料理店へ。人気店なのかお客さんが賑わっていました。デザートは、ボリューム満点のマンゴーかき氷で、甘くておいしい。

＜2日目＞21日、朝食は、フルーツがおいしいバイキングを食べたあと、台北市内・九ふん観光です。九ふんは建物が素晴らしいところでしたが、階段が多く運動不足の私には大変でしたが、お店がたくさんあり、名物のタロイモをいただきました。

昼食はもちろん台湾料理。その後、故宮博物館へ。すごく混んでいましたが、有名な彫り上げられた白菜・チャーシュー、他にも素晴らしい秘宝を見てから、忠烈祠の衛兵交代式の見学に

行きました。衛兵さんたちが、かっこよかったです!!

台北随一のパワースポットと名高い龍山寺にも参拝に行きました。学業・恋愛・厄払い・病気などの神様が集まっているとのことで、地元の人もたくさん来ていました。

夕食は北京ダック&北京料理が絶品。夜市へも寄りましたが、にぎやかな場所で、日本にもこんなところがあったら良いな～と思いました。

＜3日目＞22日は朝ゆっくりとし、正午にチェックアウトをしてから外をぶらぶらしました。お昼はグラタン・フルーツスカッシュ・パン。お土産もたくさん買い、最終日を満喫し、名残惜しい気持ちとまた来たいという気持ちを携え、空港へ。天候にも恵まれ、過ごしやすい気候の3日間でした。

旅行会社の方が1～10まで丁寧に教えてくれたので、不安なく楽しむことができ、いい思い出ができました。

ぜひ機会があったら台湾に行ってみてください。おすすめします!!



組合員変更事項

組合員名	変更前	変更後
(株)甲府情報システム	社長 浅原正樹	社長 宮川淳也
(株)コーエイ	社長 東元真一	社長 藤代大介
中央物産(株)	社長 保坂吉彦	社長 保坂彰彦

『事務局日誌』

～11～2月の主な会議等～

- ◆11月
- 1日 定例懇談会
 - 1日 インフルエンザ予防接種（6、7日）
 - 6日 正副理事長会議
 - 12日 リサイクル・一斉清掃日
 - 13日 (協) 熊谷流通センター総合防災訓練見学
 - 15日 理事会
 - 15日 西ブロック懇談会
 - 16日 北ブロックボウリング大会
 - 17～18日 フォークリフト運転技能講習会
 - 18日 青年部「L o MAの会」ゴルフコンペ
 - 20日 認定職業訓練校指導監査
 - 22日 総合防災訓練
 - 24～25日 フォークリフト運転技能講習会
 - 27日 東ブロック懇談会
- ◆12月
- 4日 正副理事長会議
 - 4日 未来検討特別委員会
 - 5日 社員交流会
 - 7日 北ブロック懇談会
 - 12日 リサイクル・一斉清掃日
 - 14日 南ブロック懇談会
 - 18～19日 エクセルビジネス活用関数テクニック講座
 - 28日 大掃除 仕事納め
- ◆1月
- 7日 仕事始め
 - 8日 新年互礼会
 - 8日 正副理事長会議
 - 15日 リサイクル・一斉清掃
 - 18日 理事会・役員新年会
 - 22日 次期役員推薦委員会
 - 24日 社員交流会反省会
 - 25日 青年部「L o MAの会」新年会
 - 28日 働き方改革セミナー（商工会共催）
- ◆2月
- 5日 正副理事長会議
 - 6日 西部会
 - 6日 南部会
 - 6日 脳ドック、肺CT検査実施（26日迄）
 - 7日 北部会
 - 12日 リサイクル・一斉清掃
 - 15日 青年部「L o MAの会」定例会
 - 20日 定例懇談会
 - 20～21日 乳がん検診
 - 22日 東部会

かいがね

また、3月11日がやってくる。東日本大震災が発生して今年で8年、あの日の記憶はいまだに鮮明である。午後2時46分、あの時私は職場の会議室で大手建設会社の営業部長と話していた。揺れが始まった時は「おや、地震だ」と思ったくらいで席を立つこともなかったが、彼が「外に出た方がいいじゃないですか」と言うので、外を見ると既にヘルメットをかぶった人たちが大勢見える。私たちも外に出て、間もなく停電になったためカーナビのテレビを見ると三陸沿岸を襲う津波の映像が流れていた。

それが震災の始まりだった。ニュースが伝えられるごとに東電の福島原発の被害が明らかになってきた。当初、専門家は原発の事故を軽視する意見が多かったが、状況は日に日に悪化の様相を呈し、チェルノブイリに匹敵する事故と言われるようになり、地震・津波に合わせて原発事故の被害が深刻となってきた。

そんな中で、全国あちこちで祭りやイベントが中止になる状況が現れ、このことが私にとって思わぬ事の原因となった。と言うのは、震災の2年ほど前、ある宴席で高校の17期後輩にあたるコンパニオンと知り合い、彼女は若くして離婚し2人の子供を抱えたシングルマザーで昼は別の仕事をしているなど、わずかな時間だったがいろんな話をした。それから時々宴席で話すことがあったのだが、その後、「コンパニオンをやめてイベントの企画会社を立ち上げました」とあいさつにきた。しばらくしてあの震災である。彼女の会社は発足後間もない中で、受注したイベントが次々と中止になり、たちまち経営に窮する状況となったようだ。数か月後、人づてに彼女の自殺を知った。悲しく残念な出来事だった。

ところで、原発である。今、われわれが知っておかなければならないのは、福島原発事故はあの時以降何ら解決に向かっていないことである。最近は大マスコミの報道もほとんどなくなり、私たち一般国民は事故そのものを忘れがちになってさえる。政府の対応も状況を軽視するように思えてならず、復興は遅々としている。2020年のオリンピックを東京に招致する際、安倍首相はIOCでの演説で「福島原発はコントロールされている」と話した。しかし、現実がそれに程遠いことは明らかである。

政府は原発の廃炉の目処を2041～2051年としているがその見通しも疑問視されている。放射能汚染水は毎日150トン増え続け、原発敷地内に貯蔵された汚染水は100万トンを超える。放射能の除染は住宅地では行われているらしいが、周辺の山間地にまでは及んでおらず、そこに蓄積された放射性物質が雨などに溶けて流れ出すリスクは解決されていない。こう言う専門家もいる。「廃炉が完遂する前に再び地震や津波に襲われた場合、さらなる大惨事となる可能性が高い」。

今後、30年間にマグニチュード8以上の大地震が発生する確率は70パーセント以上であることを忘れてはならない。

(M)